富山県食品ロス削減推進計画（改定版）に基づく令和８年度の取組概要

資料２－１

＜計画の理念＞　「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた先進的な食品ロス等の削減の推進
＜基 本 目 標＞　持続可能な社会の実現に向け、消費者・事業者・行政等の連携協力のもと、県民生活や事業活動等において食品ロス等の削減に繋がる取組みが進んだ社会を目指す。
＜計画の期間＞　令和2年度～令和11年度（10年間　※中間年に改定）

推進事項と推進施策			令和8年度の主な取組	指標	現状と目標			
					計画策定時（2019年度）	計画中間年（2025年度）	現状（2026.3月末）	目標年（2030年度）
Ⅰ 推進体制の整備	① 消費者、事業者、関係団体及び行政が連携した県民総参加の食品ロス等削減運動の展開	・県民会議を核とした全県的な食品ロス等削減運動の展開 ・食品ロス等削減に関する機運の醸成	【農産食品課】 ・県民会議の開催（10/6、20名参加） ・商慣習見直し推進のための事業者向け研修会の開催（再掲） ・すぐ食べるなら！食ロスゼロキャンペーン（再掲） ・食べきり3015運動」、食べきりサイズメニューの促進（再掲）	食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合	80.9%	85%以上	90.5%（2025）	90%以上
	② 食品ロス等の実態把握調査や効果的な削減方法等に関する調査研究の実施	・県内の食品ロス等の発生状況に関する実態把握調査の実施 ・研究結果の共有による削減の取組みの拡大						
	③ 食品ロス等削減に関する優良な取組事例等の情報収集・発信、表彰	・県内の食品ロス等削減関連情報を一元的に集約・情報発信 ・表彰等による効果のあった取組みの共有・拡大	【農産食品課】 ・富山県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰の実施 ・食品ロス・食品廃棄物削減に関するWEBサイトの管理	県民１人1日当たりの食品ロス発生量	約110g（2016）	2030年までの半減を目指して減少させる	約85g（2022）	約78g
Ⅱ 発生抑制に重点を置いた食品ロス削減の推進	① 消費者、事業者等に対する知識の普及啓発等	・事業者が行う商慣習見直し取組みへの理解促進 ・過剰な鮮度志向の改選や期限間近商品購入の普及啓発 ・児童生徒に対する食品ロス削減への理解と実践を促進 ・食育との連携による食べ物に対する敬意・感謝の気持ちの育成 ・各種イベント等で食品ロス削減対策を推進	【環境政策課】 ・食ロスゼロアクション推進事業（動画制作及びデジタル広告配信、小売店舗・イベント等での普及啓発） ・とやま環境未来チャレンジ事業での環境学習（小学校での授業実施、学習用アプリの運用） 【県民生活課】 ・アクティブラーニング型消費者教育(SDGs)推進事業（こども等を対象とした学校・地域等でのSDGs学習） 【農林水産企画課】 ・とやま食育運動推進事業（こども等を対象とした農業・漁業体験の実施支援） 【農産食品課】 ・商慣習見直し宣言事業者の募集・登録 ・商慣習見直し推進のための事業者向け研修会の開催（12月実施予定） ・すぐ食べるなら！食ロスゼロキャンペーン（啓発資材の設置） ・「食べきり3015運動」、食べきりサイズメニューの促進（協力店募集、啓発資材の設置、情報発信、フォトコンテストの実施） 【生活衛生課】 ・HACCPに沿った衛生管理の普及啓発（衛生管理計画の作成、実施・記録の定着）	商品等選択時に消費行動が環境に及ぼす影響を考慮する人の割合	37%（2018）	現状値以上	51.2%（2024）	65%以上
				食品ロス削減について学習した子どもの人数	3,022人	21,000人	21,873人	36,000人
	② 家庭における食品ロス削減	・動画やSNS等を活用した、世代・ライフスタイルに応じた食品ロス削減行動の周知・啓発 ・小学校等における環境教育の推進 ・食品ロス削減に係る人材育成の推進		商慣習見直し宣言事業者の登録数	22社	35社	28社	50社
	③ フードチェーンにおける食品ロス削減	・商慣習見直し宣言事業者の登録拡大 ・小売店における消費・賞味期限間近商品の優先購入促進 ・宴会・外食時の食べ残し削減・フードチェーンにおける取組みと削減効果の共有 ・「食べ残し持ち帰り促進ガイドライン」の周知		「食べきり3015」協力店の登録数	210店	650店	791店	830店
				「食べきりサイズメニュー」提供店の登録数	168店	500店	837店	930店
Ⅲ 循環型社会を意識した食品ロス削減の推進や適正な再生利用の推進	① 未利用食品等の有効活用	・フードバンク利用に向けた地域や団体との連携の推進 ・フードドライブ実施団体の支援と常設窓口の整備、認知度向上の推進 ・災害備蓄食料の有効活用 <フードバンク活動> 食品メーカ等から通常の販売が困難な食品を引き取り、福祉団体等に譲渡する活動。 <フードドライブ> 家庭で余っている食品を集めて、福祉団体等に寄付する活動。 <エコフィード> 食品製造過程で発生する副産物等を利用して製造された家畜用飼料のこと。	【こども未来課】 ・こども食堂の立上げ・初期運営経費、特色ある取組への助成 ・こども食堂未設置地域の掘り起こし、ネットワーク交流会の開催、関係機関との連携体制の整備 【農産食品課】 ・フードバンク活動コーディネーターの設置	フードドライブの認知度	－	－	39.5%（2023）	50%
	② 食品廃棄物の飼料化・肥料化・エネルギー化等による適正な再生利用の推進	・エコフィードとして有効活用 ・再生利用の効果的な取組事例の周知 ・市町村と連携した家庭生ごみの減量化、リサイクル推進	【環境政策課】 ・フードドライブマッチング推進（資機材貸し出し、マッチング支援） ・中小企業に対する廃棄物資源化・再生利用に必要な施設の整備資金の融資 【農業技術課】 ・「とやまのエコフィード」利用畜産物ブランド化推進事業	エコフィードの供給に取り組む事業者数	4事業者	10事業者	14事業者	20事業者